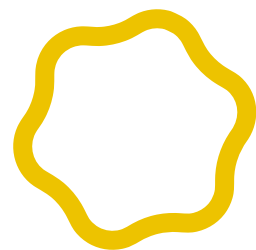


hgu_LAB. MAGAZINE

April 2019

vol.

007



PRESIDENT
OF STUDENT COUNCIL

Kazuki Sugawara



HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

The world is a
book and those
who do not
travel read only
one page.

St. Augustine

Kazuki Sugawara

菅原 一貴

北海学園大学 工学部
社会環境工学科4年（取材時3年）
海星学院高等学校出身

室蘭生まれ。工学部自治会執行部会長や、ボランティアサークル「Laugh Home」代表として、工学部のある山鼻キャンパスの環境改善に取り組んでいる。好きな言葉は、4～5世紀のキリスト教哲学者アウグスティヌスによる「この世界は1冊の書物。旅をしない者はたったの1ページしか読んでいない」。

キャンパスを楽しくしたいと動いていたら、 自治会長になっていました（笑）

「1」を「2」にするのは、けっこう簡単です。
バスケットなら、両手で割るか、ポケットをたたけばOK。
でも、「0」を「1」にするのは、なかなかやっかいです。
なぜなら、何が「ない」のかに気づくのがむずかしいから。
でもある日、いつもの自分のフィールドからはみ出したときに、
ふと見つかったりするんですよね。だから旅はすばらしい。
これは土地間の移動がない、比喩的な旅でも同じことでしょう。
旅の途中で「自治会」という可能性のバスケットを手にした菅原一貴さん、
これまでの、そしてこれからの道のりについて教えてください。

だったら会長やります

——菅原さんは自治会長なんですね。

はい、正確には「工学部自治会執行部」の会長ということになります。北海学園大学には豊平キャンパスと山鼻キャンパスがあり、山鼻にあるのは工学部だけということで、他とは独立した自治会があるんです。

——具体的にはどんな活動を？

要するに高校までの生徒会みたいなことなんですけど、学びやすく、生活しやすい環境を学生が主体となっ
てつくっていくための団体ですね。また、毎年10月に大学祭が開催されます。ここは工学部なので「工学祭」と呼ばれていますが、その企画・運営も自治会の大きな仕事のひとつです。

——自治会長になったのはいつ？

暫定的に始めたのは、2年生の10月ですね。

——暫定的というと？

2年生のときに工学祭を手伝ったのですが、ぼくはそこで初めて自治会というものの存在を知ったんです。それと同時に、当時の自治会には積極的に活動している人が誰もいないという、ちょっと衝撃的な事実も知りました（笑）。「え？…だったらぼくが自治会に入って、会長をやりますよ」と事務の方に伝えたのが始まりですね。ただし、毎年5月に開催される学生大会で公認される仕組みのため、それまでは暫定的な会長ということでスタートした感じです。

——工学祭を手伝ったり、「自治会長をやります」と宣言してみたり…。もともとそういうことに興味があったんですか？

工学部の学生は、1年目は学生数が多くてにぎやかな豊平キャンパスで学び、2年目からは山鼻キャンパスに移ってきます。そうすると、先ほども話したとおり1学部しかないので、1年目からのギャップでけっこう寂しく感じてしまうんですね。何事も楽しいのが正解だと思っているぼくからすると、これはどうにかしなければいけないと思ってしまったわけです（笑）。じつはそのような思いから、2年生の5月には仲間5人でサークルを立ち上げたんですよね。

キャンパスを第2の家に

——どんなサークルですか？

ぼくから見た工学部、山鼻キャンパスのイメージは、学生が講義を受け、実験をして、勉強が終わったらさっと帰宅する場所という感じでした。もちろん学生なので、しっかりと学ぶことができる場であることは大切なんですけど、もう少しここにいる人同士のつながりを生んで、第2の家のような、笑顔あふれる楽しい場所になればいいなと思ったんです。そのためなら、あらゆることに取り組もうというボランティアサークルを立ち上げ、「ラフホーム（Laugh Home）」と名付けました。本当にどんなことでも構わないので、学生や教職員から依頼を受けて、それらをつつひとつクリアしていく。そうすることで、徐々にキャンパスの盛り上がりにつながっていけばいいなと。工学祭を手伝ったのもその一環だったんです。

——ちなみにこれまでどんな依頼が？

別のサークルからポスター制作の依頼があったり、卒業論文のための実験を手伝ってほしいとか、まあ、けっこう地道なものが多いですね（笑）

——依頼はどのように受けるんですか？

立ち上げたばかりのころは非公認サークルのため部室がなかったのが、学生に開放されている自習室の隅に「ラフホーム」という手書きの看板を掲げ、講義の空いているメンバーが交代で依頼待ちをしていました。結果、一人も来ませんでした（笑）。今は部室もあるんですけど、そこに駆け込んでくるようなこともほとんどなく、メールで届くのがほとんどですね。工学部の学生はシャイな人が多いんです。

——この取材の時点では、ラフホームの立ち上げから1年半ほど経っていますが、依頼は徐々に増えている感じですか？

そうですね。間違いなく増えてはいます。ただ、正直なところでは、山鼻キャンパスを盛り上げるという目的には、なかなかつながっていないのが実情です。ボランティアサークルとして今後も活動が続けていきたいとは思っていますが、当初の目的をめざす場は自治会のほうかなと。

4倍売った大学祭

——なるほど。ちなみに「キャンパスを変える」という菅原さんの思いを、まわりの人たちはどう受け止めている感じですか？

基本的にはみんな、あきらめムードというか（笑）。「どうせ変わらない」という感じではあるんですけど、じゃあ現状に満足しているのかといえ、そうではないんですね。なので、もしも変化が起これば喜んでくれる人は少なくないと思っています。

——そのためにも自治会での活動が重要とのことですが、現在の自治会について教えてください。

はい。メンバーは7名で、ぼくと同じ3年生が6名、2年生が1名という構成です。今年の春には、新たな試みとして「新2年生歓迎会」を主催しました。豊平キャンパスから山鼻にきた2年生を暖かく迎えようと企画したイベントです。みんなでオードブルを食べながら、豪華景品が当たるゲームなどを楽しみ、交流のきっかけとするもので、25名が参加してくれました。参加者のなかから自治会に入ってくれる人がいればいいなと思っていたのですが、1名ゲットできました（笑）

——そして10月には大仕事の工学祭があったわけですが、いかがでしたか？

工学祭は毎年2日間の開催なのですが、今回は台風の影響で1日しかできなかったんですね。それでも前回に比べると1日あたりの売り上げが約4倍になりましたので、まずまずの成功だったのではないのでしょうか。学内にポスターを貼ったり、近隣の住戸にチラシをポスティングするなど、事前の告知をかなりがんばった成果だと思います。

——そのほか自治会としては、どんな活動を？

学生がどのようなキャンパス改善を望んでいるのかを把握するため、アンケート調査を行いました。その結果を踏まえ、自治会内で議論をして、大学に要望を出しています。スクールバスを運行させてほしい、キャンパス内で使えるフリー Wi-Fiがほしい、学食の営業時間を延長してほしいなどですね。部室の開放時間を延長してほしいという要望は、受け入れていただきました。これまで19時までだったのが、書類を提出すれば21時までOKになったんです。この2時間は大きいと思っています。





PRESIDENT | KAZUKI SUGAWARA
HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

目標は「先生」から「社長」へ

——昔からリーダー気質だったんですか？

どちらかといえば、そうかもしれないですね。小学校のころはバスケットボールのキャプテンだったり、中学校では学級委員をやっていたり。ちなみに、大学卒業後は起業も考えていたりします。

——えっ？ 教職課程をとっているという事前情報があるんですが、先生をめざしているわけではない？
高校の先生になりたいと大学に入学したんですが、この3年間でいろいろな経験を通して、ちょっと考えが変わってきました。もちろん、教員免許はしっかり取得するつもりですが。

——なるほど、いろいろと聞きたいことが増えました（笑）。まずは先生になりたいと思ったきっかけを教えてください。
高校3年生のときの担任の先生がアツい人だったんですよ。クラスになじめない生徒を、輪の中に入れる後押しをするのがすごく上手というか。一人ひとりの気持ちに寄り添った指導ができるのはすごいと思って、自分もそういう先生になってみたいと。

——菅原さんがめざす、みんなが楽しいと思えるキャンパスづくりにもつながる話ですね。ところで教員という目標に向けて北海学園大学を選んだのはなぜ？
数学が好きだったので、高校の数学科の教員免許を取得したかったんですが、工学部ではそれが可能だと知りまして。あと、できれば教員をめざす人ばかりじゃなく、いろんな夢や目標をもっている人が集まる

場所のほうがおもしろいと思ったんですね。

——ということで教職課程で学びながらも、現在は少し目標が変わってきているという話でしたが、その変化のきっかけとなった出来事は？
1年生の夏にピアガーデンでアルバイトをしたんです。そこの運営を担っていたのが、札幌を中心にたくさんの飲食店を経営している会社で、幹部の方の話がすごくアツくて（笑）。あと、このピアガーデンのアルバイトのまとまり感がすごくて、こういう雰囲気をつくることのできる会社ってすごいな、一緒に働いて学んでみたいなと思って、そのあたりから起業に興味をもつようになりましたね。

——ピアガーデン以降、その方とは今もつながりが？
はい、師匠です（笑）。バイト期間中のある日、「世界を見たほうがいい」と言われ、「うちの支店がカンボジアにあるから、一緒に行ってみる？」と誘っていただきました。それで1年間がんばってお金を貯めて、2年生の夏にカンボジアに1週間ほど同行させてもらったんです。そのときは向こうのお店の手伝いはせず、カンボジアのいろんな場所を見せてもらいました。

経験のなかに将来がある

——カンボジア旅行の前後でなにか変わりました？
自分の知らないことをたくさん見て、たくさん経験して、それで日本に戻ってきたら、なんだか心に少し余裕ができたというか。それと、知らないことをもっと知りたいと思うようになりました。

My Favorite Teacher

教育と企業経営に必要な共通のチカラとは？

伊藤 今回はどうして私を選んだの？

菅原 大学にはすごい先生がたくさんいますが、ぼくのなかでは伊藤先生がいちばんアツいんですよ。

伊藤 情熱だね。パッション！

菅原 （笑）先生の教職課程の授業では、高校の教員時代のリアルな話もしてくれますよね。いろいろと校内の改革をされてきたというエピソードを聞いて、すごいなと思っています。

伊藤 それはちょっと褒めすぎだね（笑）。あと、ぼくは改革派ではないんだ。改善派だね。改革というと、どうしても流れに逆らう感じになってしまうけど、そうすると抵抗も強いから、なかなか思うようには進まない。だから、まわりと歩調を合わせながら、少しずつ変えていく。それがぼくの言うところの改善派。教職課程の授業では、自分のやってきたことを教えているつもり。学校の現場はこうなっているよと。

伊藤先生は、教員に求められるのはどのような力だとお考えですか？

伊藤 やっぱり生徒を惹きつける力でしょう。そのためには教科指導の専門力と、思いやりとか面倒見のよさといった人間力、どちらも大事ですね。自分から子どもを嫌いにならないこと。こちらが嫌いになったら、相手も絶対に嫌いになるから。以心伝心ですね。そ

して教育の根本は、子どもたちの自立をサポートすること。だからこそ教育というのは、とてもやりがいのある仕事だと思いますね。

菅原くんは教職課程を取りながら、現状は起業の道を模索しているんですね？

菅原 はい、そうですね。

伊藤 ぼくも大学卒業後、建設系の企業に勤務してから公立高校の教員になったんですが、教職課程の学生には、教員免許を取るだけでもいいと言っています。それは将来的にふっと教員になりたいと思うときがあるかもしれないから。ぼくみたいに（笑）。そのと



Shigeki Ito

伊藤 茂樹

工学部

教職課程専任

講師

※現在は非常勤講師として勤務

——それ以降、海外へは？

3年生の夏に11日間、1人でオーストラリアに行きました。英検3級レベルなので、かなりドキドキでした。にもかかわらず10人部屋のドミトリに泊まったりして、自分を追い込むのが好きだったりします（笑）。オーストラリアでよかったのは、現地の人たちの笑顔ですね。「ハイ！」と声をかけてくれるのがすごくステキで、フレンドリーであることの大切さを学びました。あと、お店が並ぶ街の雰囲気もよくて、工学祭の出店にもその要素を取り入れてみました。

——そういった海外での経験や、キャンパスでの学びを活かしながら、将来は起業をめざすということですね。すでに具体的なプランはあるんですか？
立ち上げの目標時期はすでに仲間と決めているんですが、何をする会社をつくるのかというのは、これからさらにいろいろな経験をしながら、じっくり考えていくつもりです。そういえば、この春休みにもう一度、今度は正式な海外インターンシップというかたちでカンボジアに行ってきます。1か月以上ですね。そこでもさまざまなヒントを得られればと思っています。

——どんな会社が立ち上がるのか、楽しみにしています。と、その前に、自治会を後輩に受け継ぐというのも大切な仕事になりそうですね。
そうなんです（笑）。ぼくが4年生の時点で、誰かに会長をバトンタッチしなければなりません。ですから、今はとにかく自治会のメンバーが増えることを願っています。この冊子を見て、興味をもってくれた工学部の学生は、ぜひ自治会の部室まで遊びに来てください。最高の笑顔でお迎えますので（笑）。

きのために保険をかけておくのも悪くないと思います。人生いろいろですよ。起業、いいじゃないですか。すごい勇気だと思う。でも、人生は長い。そのためにも、関係ある資格を取っておくことは大切だと思う。様々な社会経験をしてから教員になった人の評価は高い人が多いですが、その反面、教員は公務員ですから立場を勘違いしている人もいます。

教員は生徒を導く立場、社長は社員を導く立場、そういう意味では共通点があって、教職課程の学びで活かせるような部分もありそうですね。

菅原 そうですね。今もサークルを立ち上げたり、自治会長になったりと、起業ではないですが、それに似たような活動をしていて、そこで大切だと感じているのが、先生が先ほどおっしゃった人間力の部分です。個々のメンバーに対して親身に、アツく接しないと、離れていってしまいますから。

伊藤 やっぱり、あったかい心が大事なんだよな。それと、「覚悟」と「どう生きるか」だな。これは大事だよ。「生きる」と「生活する」は、自分のなかでは別ものだと思っている。安定した生活のためにただ働くというより、仕事の時間だって人生の大きな一部分なんだから、大切にしていけるのがいいと思う。

菅原 はい、何事も内容を大事にしていきたいです。ただぼーっと生きるだけではなく、ぼくも先生のように、何かをかたちにしていきたいと思います。

伊藤 粘り強くやるしかないわな。そのためには、努力は裏切らないと思ったほうがいい。ダメなときや、うまくいかないときもあるよ。そのときは努力が足りないんでしょ、と思うようにしている。あとはね、これからいろんな人と関わると思うけど、人を色眼鏡で見ないこと。そして上から目線はだめ。あとはそうだな、小さなことはいっぱいあるけど、それはまた今度話そうか（笑）

菅原 （笑）はい、ありがとうございます。

My Favorite Place



つけ麺からのパインアメ、 このルーティーン！

ここは大学の豊平キャンパスから徒歩5分の位置にあるつけ麺屋さんです。じつはぼく、山鼻キャンパスに通っているのに、住んでいるのは豊平キャンパスのすぐ隣なんですよ（笑）。なので、ここにはよく食べに来ますね。味噌推しのお店なんですが、ぼくは塩を頼みます。ここに限らず、ラーメンはとにかく塩派なんです。麺は「冷や盛り」と「あつ盛り」から選べて、僕は冷やですね。猫舌なので（笑）。あまり詳しいことはわからないですけど、このつけ麺は、濃厚なつけダレが太麺によく絡んで、本当においしいです。とろとろのチャーシューも最高です。大盛りはプラス100円、でも学生はそれが無料というのも最高です。学生限定の「元氣玉」も忘れてはなりません。いわゆる替え玉なんですけど、おかわり自由で、しかも無料という信じられないアイテムです。ぼくも挑戦したことがありますが、2玉で限界でしたね（笑）。そして食後は、入り口に置いてあるパインアメ。つけ麺からパインアメのルーティーン、完ぺきです！

札幌つけ麺 風來堂

札幌市豊平区豊平8条9丁目3-20
011-598-0028
11:00～15:30、17:30～21:00
毎月1回の不定休

つけ麺（味噌・塩・醤油） 850円
ラーメン（味噌） 800円

※2019年2月現在



My Favorite Things



モル

モルモット

ノースサファリサッポロ（札幌市南区にある体験型ふれあい動物園）に遊びに行ったとき、モルモットの赤ちゃんが9匹生まれたということで、偶然販売されていたんですよ。思わず買ってしまいました（笑）。名前は「モル」です。最初は本当にちっこくて、鳥かごで飼っていたんですけど、どんどんでかくなり、立派な小屋を買っちゃって。エサもドライフルーツとか高価なものを食べさせちゃうんですよー。ぼくの食費よりもかかっているかも（笑）。とにかくかわいくて、毎日家に帰るのが楽しみです。



キャップ

Carhartt

学校に行くときはほぼ毎日、スウェットにパーカー、そしてキャップ。寝グセがついていてもバレないので、朝が苦手なぼくにとっての必須アイテムですね（笑）。これはアメリカのワークウェアブランドのキャップ。ネットで買いました。最近はずっとこればかり被っています。



カード

BICYCLE

高校のバスケ部の先輩に、マジックが得意なイケメンがいて。ぼくもマジックができればモテるかなと思って弟子入りました。カンボジアに行ったときにも披露したんですが、すごく驚いてくれて。マジックは言語の壁を超えますよー。



レザージャケット

MC-DUNCAN

オーストラリア旅行中、一目惚れして買ってしまいました。けっこう高いので、すぐ買う勇気が出ず、結果的に3日間もその店に通ってしまいました。内側がウール、外側がレザーで、すごくあったかいんですが、すごく重いので肩が凝ります。おしゃれは我慢ですから（笑）



BeatsX

Beats by Dr.Dre

このイヤホンはまず、音質がいいです。そしてBluetoothなので、スマホにつないだり外したりする手間がかからないため、いつでもどこでも首にかけっぱなしです。最近ちょっと太ってしまったので、これで音楽を聴きながら、バイト先から走って帰るようにしています。



キーホルダー

よく鍵をなくすぼくを見かねて、高校1年生のときに友だちがくれたものです。全然知らないキャラクターなんですけど、なんか好きですね。そして、大きいので全然なくなります（笑）。気づけば6年間も使っていました。これからもずっと一緒にいることになると思います。



7つの習慣

スティーブン・R・コヴィー
キングペアー出版

ぼくの師匠（P5参照）からいただいた、とても大事な1冊ですね。書名のとおり、生きるうえで価値のある7つの習慣について書かれているんですが、なかでも「第四の習慣・Win-Winを考える」が心に響きました。自分も相手もうれしいと思えることに取り組んでいきたいです。



バスケットボールシューズ

AND 1

ストリートバスケット系に強いアメリカのシューズブランドです。1年生のころから履きつけています。唯一無二の見た目が好きで、ゴツい感じが自分のファッションにも合っているかなと思っています。あと、まわりとかぶってないことも大きなポイントです（笑）



土木材料 実験指導書

土木学会

これはある意味、人生のなかでいちばん思い出深い教科書です。書かれている内容を数ページずつ写経するというレポートがありまして。一度にA4用紙で13枚とか、とにかく書き続けるという。ちょっと嫌になるぐらい向きあいました（笑）。でも、今では確実に力になっています。